

Ⅳ-480

写真投影法による筑後川中流域のイメージマップ作成の試み

九州産業大学工学部 正 員 山下 三平
九州産業大学工学部○学生員 平島 賢一
九州産業大学工学部 志方 英紀

1. はじめに

地域の空間的重要度を探るために住民へのインタビューやアンケートによりイメージマップ¹⁾を作成する試みがなされている。本来イメージマップは人々の行動と本質的に関わりのあるものであるが、インタビューやアンケートからではその点が十分に明らかにならない。

そこで本研究では、地域の住民に撮影してもらった河川環境の映像とそのときの音声と筆記による意見の分析（『写真投影法』²⁾）、ならびに撮影行程の追跡データをもとに、地域の空間的重要度を表わすイメージマップの作成を試みる。

2. 調査と分析の方法

調査対象地域は筑後川中流域の田主丸町全域である。同町には筑後川をはじめ、巨瀬川、三津留川、古川などの中小河川やその流入水路、および耳納連山から流れてくる小河川などさまざまな河川がある。また主要産業が果樹栽培と、植木の生産などの農業地域で古くから河童の言い伝えのある多種多様な水辺空間が形成されている水に関心の深い町である。

調査は1993年の8月から12月に行った。田主丸町の住民に丸一日かけて音声記録機能付ステレオビデオカメラまたは8ミリビデオカメラで河川景観の撮影してもらった。それと一緒に意見・感想を音声や記録ノートに記してもらい、撮影地点も書いてもらった。そして被験者の住民を成人と子供にわけて撮影地点のデータを20mメッシュの地図にプロットしたものをもとに、1) 成人と子供ともに撮影の多い地点の地域と、2) 成人だけが撮影している地点の地域と子供だけが撮影している地点の地域を調べて、音声や記録ノートの内容を参考に地域の特性を誘示し考察を行う。

表1 参加者の属性

	男	女	合計 (人)
成人	28	18	46
子供	31	18	49
合計(人)	59	36	95

3. 分析の結果

(1) 成人子供とも撮影頻度の高い場所

成人子供ともに撮影の多い地域（図1）を調べた結果、次のようなことがわかった。

撮影頻度の多いところとして、田主丸町の中心にある中央橋付近やその隣の村島橋付近の巨瀬川沿川（図1中のD）が挙げられる。これはここが町の中心であり、河童祭や花火大会などの主要な行事が行われ、生活の中心となる場所であり町の住人にとっては重要な場所であるといえる。

次に撮影の多いところとして筑後川が挙げられる。筑後川は日本の三大河川であり、その広大な沿川にはサイクリングロードを備えた河川敷がある。人々の憩いの場としての空間がそこにはあった。また撮影の集中している筑後川橋付近（図1中のA）は野球グラウンドや公園があり散歩やスポーツ、またレクリエーションの場として人々の集まるところである。

筑後川と合流する古川（図1中のB）では広大な河川空間の中にそびえたつ水門や恵里堰があるため撮影が多くなっている。また三津流川が合流するところ（図1中のC）にたっている水門の付近でも撮影が多くなっている。人々にはこの水門が、構造物としての大きさだけでなく、生活を支えるものであるため、深く印象に残っているであろう。

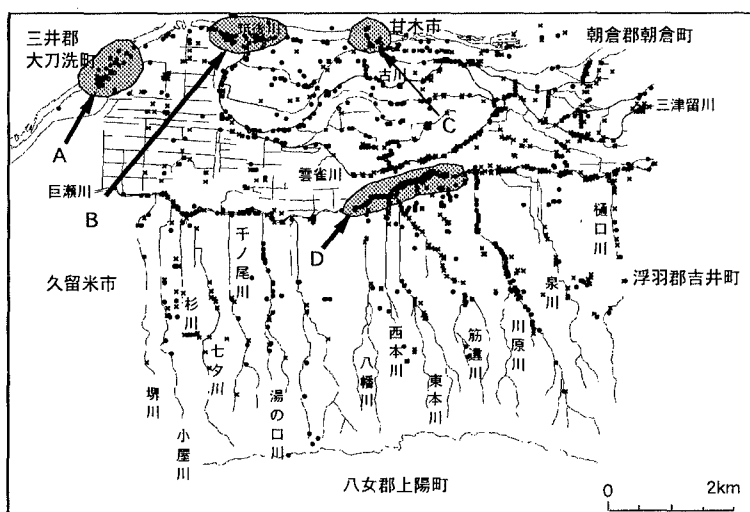


図1 撮影地点の分布図

* 子供の撮影地点
・ 成人の撮影地点

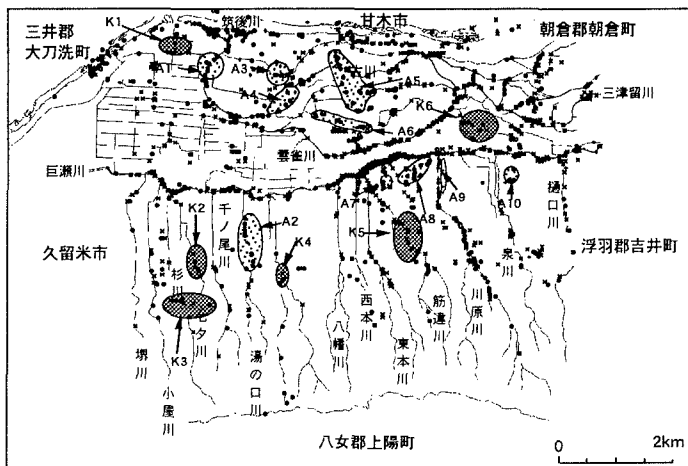


図2 成人・子供のみの撮影地点

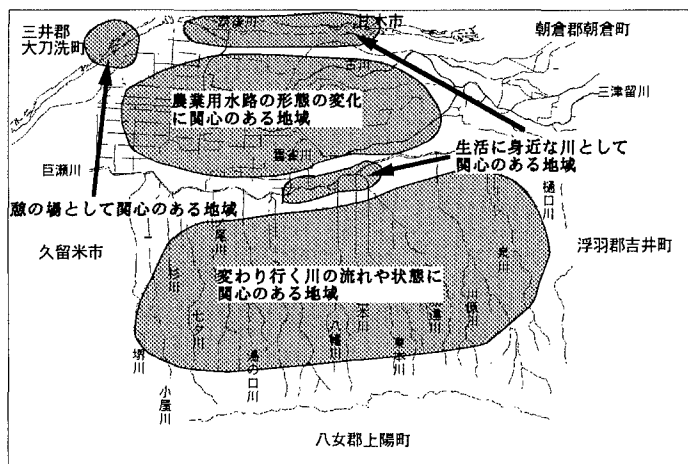


図3 田主丸町のイメージマップ

(2) 成人・子供の撮影が重ならない場所

・成人は撮影地点をA1～A10の10の地域としてあげることができた(図2)。

A1・A3・A4・A5・A6では、三面コンクリートや、石組の護岸などの形態や、河川の状態についてのコメントが多い。これらの地域は古くから多くの農業用水路があり、人々が変わりゆく用水路の形態に関心を示していることがわかる。その代表的なコメントとして、次のようなものがある。

「向こうのほうは綺麗に工事をしているんですけど手前のほうは工事をしていないように見えます。これは本当は石垣で工事をしています。」

A2・A7・A8・A9・A10では水質やゴミ、川の流れなどについてのコメントが多い。この地域は山か

ら流れてきている川であるため、清冽で流れの速い水のイメージが変わりつつあることを念頭に置きつつ撮影が行われた様子がうかがえる。その代表的なコメントは次のとおり。

「川の流れが急になっています。」

「昔は家庭用の水として利用していたが現在は田の水としての利用が占めている。」

・子供は撮影地点をK1～K6の6の地域に分けることができた(図2)。

K1・K6では、水質やジャンボタニシについてのコメントがあった。水田の多いこの地域には用水路にタニシがたくさんいるので子供にとって格好の撮影材料であったことがわかる。その代表的なコメント：

「ジャンボタニシがいてきたないです。」

「川の水が濁っていてゴミが多いなあ。」

K2・K3・K4・K5では、山に近いのほうは水が綺麗との指摘が多い。その代表的なコメント：

「とても水が透き通っています。」

「水の色がとても綺麗です。でも水の量がちょっと少ないです。」

4. まとめ

以上のように筑後川沿川では人々の活動や広大な景色に注目が集まっている。筑後川と巨瀬川の間地域では急速に進む農業用水路の変化に注目している。田

主丸町中心の巨瀬川沿川や古川などが筑後川と合流するところでは、生活に身近な川として関心が高い。また巨瀬川より南の地域では山からの水や脇水の変化に関心があるコメントが多い。これらを空間的図にまとめると図3のようになる。

今回は撮影の多い地点と成人と子供のみの撮影している地点だけを考察してみた。各々の注目場所の違いに応じた河川環境の整備が望まれる。今後は価値判断・評価に関するコメントや、撮影時における物理的要素について考察して田主丸町のイメージマップの作成を行ってみたいと考えている。

【参考文献】

- 1) ケビンリンチ：都市のイメージ 1959
- 2) 野田正彰：漂白される子供たち、情報センター出版局、1988